

【随 筆】

とんでもない年になりそうですね

住 吉 尚
(釧路支部)

季節はそろそろ春近し。年度末がすぐそこまで来ています。世の中は騒がしくなってきましたが、皆さんはどんな年度末を迎えようとしていますか？私は相変わらずと言ったところでしょうか。

話は変わります。昨年秋遅くに、道北の豊富町で4羽のタンチョウを捕まえ、足輪を付けたと聞きました。この捕獲は私たちが例年やっているヒナを手づかみにして足輪を付ける方法とは違って、無双網と言う仕掛けで捕まえたと言っています。これは網の両側に棒が付いたものを倒しておき、この前に餌を撒きターゲットが餌に釣られて網に近づいたところで棒を引き、捕まえようとしている鳥の方へと網を引き倒す方法です。これは毎日餌をやって、餌付けしてから仕掛けを準備し、充分馴れたところで捕獲するというので、準備に時間的な余裕がないとできない方法です。ともあれこの方法で4羽のタンチョウを捕獲することができました。親子3羽と亜成鳥1羽でした。親子3羽は10月30日に捕獲し、亜成鳥1羽は約1カ月後の11月28日に捕獲したとのこと。このうちの親子3羽の雄親に発信器を付け、残りの3羽には見て分かるような足輪を付けたとのこと。そしてこの冬、このうちの2羽が鶴居村の給餌場にやってきました。この2羽が釧路で越冬するタンチョウの中で最も遠くから飛んできた個体です。でも残りの2羽はどこに行ったのか未だに分かっていません。親子3羽と若い1羽を放したのに何で2羽だけなの？私も不思議でした。釧路にやって来たのは、親子連れだった家族のうちの雄親と単独の若い雄です。雌親と子供（雌）はどこかに行っちゃいました。ということは、この夫婦は足輪を付けられた後、どうやら別れてしまったようです。この雄親は捕獲されたショックからでしょうか、しばらく湿原の中から出てこなかったそうです。これはこの雄だけに位置情報の発信器を取り付けたので分かっていることです。この間に雌と子供はどこかに移動していったようなのです。私が思うに雌親は根性無しの雄を見限って子供を連れてどこかへと行ってしまったということでしょうか。こん



豊富町から来た雄親

なことが起きるなんて、初めて聞いた話です。今、私の目の前には50羽ほどのタンチョウがいて、その中に足輪が付いたタンチョウは3羽。このうち、豊富町から来たタンチョウが2羽います。雄親にして見れば毎年冬を越してきた鶴居に來れば、雌と子供にまた会えると思っていたのかもしれませんが。津別辺りで1泊して、1泊2日で釧路まで。かなりゆっくりした旅だったようです。タンチョウは条件が良ければ時速80 kmほどで飛べると言いますから、急げば1日で飛んで来れそうですね。でも雌を探しながらで、のんびりなんかできなかったかも。でも鶴居に雌は見当たりません。そして季節はもう3月、そろそろ繁殖期が始まります。雌に振られたからと言って、いつまでもしょげてはいられません。私の目の前で、新しいパートナーを求めているのでしょう。雌に求愛のダンスを仕掛けていますから、ショックからはすっかり立ち直っているようです。

これは3月3日の午前のことです。この雄には右足に426と言う番号が、そして左足には黄色いプラスチックリングが付いています。また若い雄には429番の足輪が、そして左足には何も付いてはいません。ヒナを連れた雌には右足に427番の足輪が付き、左足には上から黄と赤が。そして去年生まれの幼鳥には右足に428番の足輪が付き、左足に上から黄と青のプラスチックリングが付いていると言います。さて行方不明の2羽ですが、私はオホーツク管内にいないのではと思っているのですが、どなたか見かけたらぜひ私まで連絡をお願いします。と言うのは釧路管内をかなり詳しく調査しても見つかりませんでした。そしてこの夫婦は昨年と同じような渡りをしたと思われますから、やはり真つすぐ南へ行き、釧路に届かなかったのなら北見管内かなー。と単純に思ったわけです。2羽が冬に鶴居に来たということは、この個

体の親鳥は釧路湿原からあまり遠くない場所で繁殖したのでしょう。これとは別に豊富では無精卵と数枚の羽根が落ちていたという巣があり、この羽根から大陸産を思わせる遺伝子が見つかったと言います。大陸と道北を行き来する渡りをするタンチョウがいたら面白い、と私は思っています。そしてこんなタンチョウに付いて行く北海道産のタンチョウがいるなんて、想像するとタンチョ



新しい足輪は黄色



古くなると白っぽい



ひどくすり減った足輪

ウの世界も大きく広がって面白いのだが、とは思いませんか？雄2羽が鶴居に来て、雌2羽が行方不明と言うのは単なる偶然ですかね？こんなことから改めて釧路周辺で足輪付きタンチョウを探しています。足輪は表面を黄色く染色したアルミニウム製なのですが、古くなると色が薄れて白っぽくなったり、どうしたらこんなに擦れるの？と言うほど擦れて字が読めなくなりそうなものまでありますから大変です。

翌日の3月4日、今度は標茶から浜中にかけてタンチョウが集まるところを調べ、豊富から来たタンチョウを探しましたが空振り。霧多布でラッコでも見ようかと行ってみましたが、こちらも空振り。幌戸から姉別辺りを回って帰ろうと幌戸沼へ。丘の上から幌戸湖畔を見降ろすと、2羽のタンチョウがいるのが見えました。でも坂を下りていくと湖畔の道路側には砂でしょうか、沼に水路を掘った残土でしょうか？何やら積んであるので沼の中は道路側からは見えません。橋の上から見てもダメ。先の道路を見ると坂は沼を回りこむように曲がっています。あのカーブまで行くと沼の中が見られそう。と少し移動します。この辺と思う所で車を止めましたが、車内からは左後ろでかなり不自由な格好をしなければ見られません。でもその前に、前方遠くに見える黒い点は何だろう？双眼鏡でのぞくと、なんと「オー、クマだ！」肩が大きく盛り上がって見えたので成獣、雄か？遠くで比べるものがないので少し自信がありませんが、大きな雄の成獣、と見ました。湿原の中です。すぐ向こうに丘が見えますから、丘の下に湧水が出ているところがあるのでしょうか。下を向いて食べ物を探しているように見えました。それにしても早い寝覚めですね。やはり温暖化の影響なんのでしょうか。雄は一般的に雌より早く目覚めるようです。雌は冬眠中に産卵し、子供が多いので、そんなに早くは冬眠穴から出てはきません。もう1カ月ほど穴にいて、子供が歩けるようになってから出てきます。雄は子育てと関係がないので、雌よりすこし早く穴から出てきますが、あまり早く出てきても未だ食べるものはありません。こんなに早く出てきて、どうするのでしょうか。私がクマならこうします。一番手取り早い食べ物は、湧水が出ていて凍結していない水たまりの中でしょうね。春一番にミズバショウやエゾノリュウキンカ（ヤチブキ）が咲きますから、こんな植物の根株を掘って食べるでしょう。クマは冬の間には何も食べていません。最初に食べる食べ物は苦みが強く少々毒があるような植物を食べ、胃や腸の動きを活発化させるのです。量的には少ないものでも体に良さそうな食べ



幌戸沼のヒグマ

物を探して食べ、この後は坂を上がって線路沿いでシカの死骸でも探すでしょう。クマは犬より鼻が良いのでシカの死骸を探すのは難しくはないでしょう。昔の人たちはこの時期にクマ猟をしました。まだ積雪が多いので、クマ猟をするのに最適なのです。餌が少なく、山に追われると足跡がどこまでも続きますから。そして藪が雪の下になっていて見通しが良いというのもハンターにとっては大きな利点です。でもこうして獲られたクマですが、冬の間寝ていたので背中が毛が擦れていること、餌を食べて胆のうが小さくなっていること、痩せていることなどで、あまり高くは買ってもらえなかったのです。最も高く買われたのはアナグマと言って、冬眠中のクマでした。絶食中は胆汁が胆嚢に溜まり続けるので大きいのですよ。私がクマと関わっていた50年も前には、ハンターや毛皮商などの知り合いがいました。ヒグマは雄と雌では毛皮の質が全く違います。雄の毛皮は毛がゴワゴワして毛皮としてはあまり良いものではありません。ただ大きいので自慢するために毛皮にする人も多かったようです。そこで大きな雄は剥製にして旅館などのロビーに飾ったり、という需要の方が多かったようです。雌の毛皮は毛がふわふわして雄よりずっと良い毛皮になります。飼育下のクマはコンクリートで擦れるので冬毛になってすぐでないと良い値が付きませんでした。

さてヒグマと言えば、ここ釧路地区の牧場で牛を襲う巨大な雄グマがいると言います。放牧中の牛がもう何十頭も殺されています。箱ワナには入りません。巨大な雄は、とても用心深く簡単には人前に姿を現すこともありません。それでないと、ずっと前に駆除されているでしょう。我々が考えているよりズーと手ごわい相手ですよ。

やっとコロナ第6波にめどが立ちそうになって来たというのに、突然起きたプーチンの狂気です。ガソリン価

格の急上昇は大変ですが、一方で昨日まで普通に暮らしていた人たちが爆弾に追われて逃げ回っています。ここはウクライナの人々を思って、我々も我慢しなければなりませんね。ただただこの戦争が早く終わることを願うばかりです。

〈句題〉
雪消道 ゆきけみち

「泥浴びて
失せもの現る雪消道」
あらは

「車みな
泥をかけあふ雪消道」

「軒下は全て注意の雪消道」



(室蘭市 白波瀬 稔歳)